

東京クリニック

医薬品情報

TEL 03-5287-5532

Web <http://www.tokyo-clinic.jp>

Mail info@tokyo-clinic.jp

パンテノール製剤

※ 処方せん医薬品
 (注意 - 医師等の処方せんにより使用すること)

パントール® 注射液 100mg
パントール® 注射液 250mg
パントール® 注射液 500mg
Pantolinj. (パンテノール注射液)

貯 法：室温保存

使用期限：外箱に表示の使用期限内に使用すること。

(使用期限内であっても開封後はなるべく速やかに使用すること。)

| | 100 mg | 250 mg | 500 mg |
|-------|-----------|------------|------------|
| 承認番号 | (鳥薬) 1776 | (37A) 5019 | (42A) 1819 |
| 薬価収載 | 1960年6月 | 1965年11月 | 1970年8月 |
| 販売開始 | 1959年4月 | 1962年12月 | 1970年8月 |
| 再評価結果 | 1992年6月 | | |

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】
 血友病の患者[出血時間を延長させるおそれがある。]

【組成・性状】*

| 販売名 | パントール注射液 100 mg (1管1mL 中) | パントール注射液 250 mg (1管1mL 中) | パントール注射液 500 mg (1管2mL 中) |
|-------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 成分・含量 | パンテノール 100 mg | パンテノール 250 mg | パンテノール 500 mg |
| 添加物 | ベンジルアルコール 10 mg pH 調整剤 | ベンジルアルコール 10 mg pH 調整剤 | ベンジルアルコール 20 mg pH 調整剤 |
| 性状 | 無色の液でわずかに特異なおおいを有する。 | | |
| pH | 4.5 ~ 6.5 | | |
| 浸透圧比 (生理食塩液に対する比) | 約 2 | 約 6 | 約 6 |

【効能・効果】

- (1) パントテン酸欠乏症の予防及び治療
- (2) パントテン酸の需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給
(消耗性疾患、甲状腺機能亢進症、妊産婦、授乳婦等)
- (3) 下記疾患のうち、パントテン酸の欠乏又は代謝障害が関与すると推定される場合
 - ・ ストレプトマイシン及びカナマイシンによる副作用の予防及び治療
 - ・ 接触皮膚炎、急・慢性湿疹
 - ・ 術後腸管麻痺
 (上記(3)に対して、効果がないのに月余にわたって漫然と使用すべきでない。)

【用法・用量】

通常、成人にはパンテノールとして1回 20 ~ 100 mgを1日 1 ~ 2回、術後腸管麻痺には1回 50 ~ 500 mgを1日 1 ~ 3回、必要に応じては6回まで、皮下、筋肉内又は静脈内注射する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

| | 頻度不明 |
|-----|-------|
| 消化器 | 腹痛、下痢 |

2. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない。

3. 適用上の注意

- (1) 投与時：

副交感神経興奮剤(ネオスチグミン等)使用後は12時間、また、サクシニルコリン投与後は1時間の間隔を置いて投与することが望ましい。
- (2) 筋肉内注射時：

筋肉内注射にあたっては、組織・神経等への影響を避けるため、下記の点に配慮すること。

 - 1) 神経走行部位を避けるよう注意すること。
 - 2) 繰り返し注射する場合には、例えば左右交互に注射するなど、注射部位をかえて行うこと。
 なお、乳児・幼児・小児には連用しないことが望ましい。
 - 3) 注射針を刺入したとき、激痛を訴えたり、血液の逆流をみた場合は、直ちに針を抜き、部位をかえて注射すること。
- (3) アンプルカット時：

本剤はアンプルカット時にガラス微小片混入の少ないワンポイントカットアンプルを使用しているため、ヤスリを用いずアンプル頭部のマークの反対方向に折り取ること。
 なお、アンプルカット時にはカット部分をエタノール綿等で清拭し、カットすることが望ましい。

4. その他の注意

低カリウム血症、機械的腸閉塞症の患者には臨床効果は得られない。

【臨床成績】

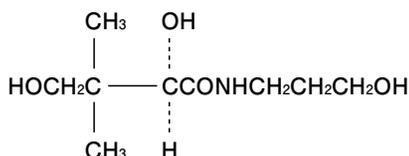
パントテン酸の欠乏又は代謝障害が関与すると推定される術後腸管麻痺、接触皮膚炎、急・慢性湿疹等に対して本剤の有用性が認められている。¹⁻³⁾

【薬効薬理】

1. 生体内にとり入れられたパンテノールは、体内で容易に酸化されてパントテン酸となる。パントテン酸はさらに CoenzymeA (CoA) → アセチル CoA となって、TCA サイクルにおけるオキザロ酢酸のアセチル化、神経刺激伝達に不可欠であるアセチルコリンの生成、その他酢酸、芳香族アミン、グルコサミン、アミノ酸等体内重要物質のアセチル化に関与している。
2. パンテノールは健常ウサギの呼吸、循環系、腸運動にほとんど作用を示さないが、実験的に虫垂を切除したウサギの腸運動を亢進することが認められている。⁴⁾
3. Wistar 系ラットを用いた試験において、非経口投与されたパンテノールの尿中排泄はパントテン酸カルシウムと比較して緩徐であり、体内利用時間の延長が示唆されることが報告されている。⁵⁾

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：パンテノール (Panthenol)
(Dexpanthenol, D-Pantotheryl Alcohol)
化学名：D-(+)-2, 4-Dihydroxy-N-(3-hydroxypropyl)-3, 3-dimethylbutyramide
分子式：C₉H₁₉N O₄
分子量：205.25
構造式：



性状：パンテノールは無色～微黄色の粘稠な液体又は白色の結晶性の塊又は無色～微黄色の粘稠な液体と白色の結晶性の塊の混合物で、わずかに特異なおいがあり、味はわずかに苦い。水又はエタノールと混和し、エーテルに溶けにくい。
パンテノールは吸湿性であり、水溶液(1→20)はアルカリ性である。

【包装】

パントール注射液 100 mg (1mL) 50 管
パントール注射液 250 mg (1mL) 50 管
パントール注射液 500 mg (2mL) 50 管

【主要文献】

- 1) 勝部寛二ほか：臨床外科, **14**, 1275 (1959)
- 2) 鶴見清彦ほか：パントール 500 mg 注文献集, P.12 (1971)
- 3) 久保泰徳ほか：新薬と臨牀, **10**, 561 (1961)
- 4) 鈴木武彦：福島医学会誌, **13**, 117 (1963)
- 5) 山脇 豊ほか：ビタミン, **23**, 169 (1961)

【文献請求先・製品情報お問い合わせ先】**

トーアエイヨー株式会社 信頼性保証部
〒330-0834 さいたま市大宮区天沼町2-300
電話 (048) 648-1070

**  製造販売
トーアエイヨー株式会社
福島県福島市飯坂町湯野字田中1番地

**  販売
アステラス製薬株式会社
東京都板橋区蓮根3丁目17番1号